

2019年度幼稚園教育課程研究協議会 第2分科会 協議概要

発表者 高岡第一学園附属福岡ひばり園 深井 敬祐
記録者 高岡第一学園附属第三幼稚園 出口 真野
高岡第一学園認定こども園第二幼稚園 谷川 淳郎

1 伝達講習の概要

(1) 幼稚園教育要領総則の改正の要点

- ① 幼稚園教育の基本
- ② 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
- ③ 教育課程の役割と編成等
- ④ 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価
- ⑤ 特別な配慮を必要とする幼児への指導

(2) ねらい及び内容の改善・充実

(3) 教育課程に係る教育時間終了後等に行う教育活動等

(4) 体力向上マネジメント

- ① 体力の捉え方
- ② 幼児期における身体活動の現状
- ③ 幼児期における運動の意義
- ④ 幼児期の運動の在り方
- ⑤ 体力向上マネジメントの推進

2 研究発表の概要

(1) 分科会協議主題

幼稚園教育と小学校教育との接続の推進について

(2) 研究の視点

- ① 相互の教育の理解や子供の姿、学び等の理解を深める。
- ② 子供の育ちや学びをつなげていくための交流や連携の在り方を考える。
- ③ 就学に向けて、滑らかな接続ができるよう、家庭との連携の在り方を考える。

(3) 実践より明らかになったこと

視点①について

- ・事前の打合せや振り返りを幼小合同で行うことで、小学校の教員に幼稚園での経験が小学校の学習につながっていることを感じてもらうことができた。活動のねらいや相互の関わりを明確にして伝え合うことが双方の教育への理解を深めるために大切である。

視点②について

- ・自分の思いを言葉で伝える力、失敗しても、もう一度挑戦しようとする前向きな気持ちを育てることの大切さを感じた。また、幼小連携の活動では、活動の意図を知らせたり、互いの実態を伝え合ったりするなど、事前の打合せを丁寧に行うことが、連携の充実につながるということが分かった。

視点③について

- ・円滑に接続するためには、幼児に小学校への安心感や期待感を育むことが、大切である。そのためには保護者の支えや協力が不可欠である。幼児が小学生と楽しく交流したことを家庭で伝え、園からも幼児の様子を便り等で知らせることにより、保護者は安心し、滑らかな接続に向けて家庭と連携を図ることにつながった。

(4) 今後の課題

- ・幼稚園において遊びや生活を通して育まれてきたことを、小学校教育に円滑につなげるよう、カリキュラムを検討し、さらに幼小の連携を深めていきたい。

3 協議の概要

(1) 質疑応答

Q：小学校と交流していく中で一番難しいと感じたことは何か。

A：幼稚園が“こんなことをしてみたい”と思っても、小学校側に受け入れてもらえるのか分からないということが多く、小学校との折り合いのつけ方が難しいと感じる。

Q：小学校の人事異動がある中、交流を続けるために工夫した点は何か。

A：異動がなかった教務主任とのやり取りを中心に、今までの経過や意図を具体的に伝えるようにした。

(2) グループ協議（3色の付箋に書き、それを基にグループ毎に協議した）

○自園でやってみたいこと（ピンク色）

- ・事前事後の打合せ
- ・幼小の合同研修会（公開保育や研究発表）
- ・小学校見学
- ・保護者への発信（ボードの活用）
- ・教師同士での意見交換等

○今行っている取組（水色）

- ・交流会（学校見学、授業参観、訪問交流、お楽しみ集会、カレーパーティ等）
- ・就学予定の子の情報交換
- ・小学校教師の幼稚園参観等

○連携していく中での課題や悩み（黄色）

- ・校長、教頭先生が変わると継続が難しくなる。
- ・園行事との調整が難しい。 など

4 指導助言事項 西部教育事務所 山口 真沙恵 指導主事

(1) 相互の教育への理解や子供の姿、学び等の理解を深めるための手立て

- ・幼児の発達と学びの連続性を確保するためには、成長を長期的な視点で捉え、互いの教育内容や指導方法の違い、共通点について理解を深めることが必要になる。幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図るために小学校教師との意見交換会や合同研修会、保育参観や授業参観等で連携を図ることが大切である。
- ・幼稚園が活動のねらいや何のためにどんな活動をしたいのかを事前に伝えておくことで小学校はねらいに迫れるような活動を用意しておくことができる。
- ・限られた時間の中で、連携の機会はなかなかとれないと思うが、事前の打合せや事後の意見交換を大事にするなど、指導者の意識を変えるだけで、同じ交流でも中身の濃さが変わる。
- ・入学してくる幼児がどのような育ちをしているのか知っておくことは重要なことなので、交流の際は、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手がかりに幼児の育ちについて話し合ってもらいたい。

(2) 子供の育ちや学びをつなげていくための交流や連携の在り方について

- ・異年齢の幼児と関わることで相手意識が芽生え、相手のことを考えて人間関係を築いていこうとする態度が育つ。
- ・幼児が児童と同じ体験をさせてもらうことで、小学校生活への期待を膨らませることができる。

(3) 就学に向けて、滑らかに接続できるようにするための家庭との連携の在り方について

- ・幼児が安心感をもって就学するためには保護者の支えや見守りが不可欠であり、家庭との連携はとても重要である。幼児が児童との交流をうれしそうに家庭で話したり、交流での園児の様子を園から保護者に発信したりしていくことで、保護者の不安を軽くすることができる。今後も、そのような情報交換を大事にしてほしい。